

平成 28 年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 遂行状況報告書

玩具から墓場までをテーマに「棺桶製造の調査・サンプル制作」  
- 榿材等の有効活用を考える -

団体名：金子製材株式会社



事業の目的・内容

秩父産の木材で柩を製作する。

戦後、日本各地で植林された木も成長し「育てる」から「使う」時代へと入ってきました。秩父地域でも多くの木材が利用を待っています。そこで、秩父地域の木材の有効利用を考え「特に軽くて綺麗な榿材」を使った柩を制作してみようと思います。



今までの活動状況

まずは、現在使われている柩の生産地を探してみました。しかし、残念ながら使われている柩の多くは、安価で大量に生産される中国製が主流とのことでした。そこで、地域の木材で柩を製作した長野県恵那市を訪問し話を伺うことにしました。2016年8月30日（火）に恵那市役所に柩を御用意頂き説明を受けました。唐松、杉、桧の3本の柩とキットになった柩が用意されていました。「人は亡くなるとつま先が下の方に下がる為、身長より10センチくらい大きな柩が必要だ」とか初めて聞くことが多く非常に参考になりました。その後、新潟県長岡市の建具業者の方や都幾川の木工屋さんを訪ね西田木工様にサンプルの依頼をさせて頂きました。又、燃焼実験のため（社）火葬研に問い合わせさせて頂き、地元で実験が出来ればと市役所の方と広域市町村圏組合へ実験の依頼をさせて頂きました。



これからの活動・行事

12月中にサンプルを製作し来年早々には燃焼実験をさせて頂ければと思います。